

— 広告 —

KIT
キャンパス
レポート



宮下 幸大 (みやした こうだい)
金沢工業大学大学院工学研究科
建築学専攻
博士前期課程二年
石川県立金沢西高等学校出身

今は五つのコンペを同時進行 ちがうテーマを考えるのが楽しい。

小さい頃から図工が好きだったこと、高校三年の時に京都駅を見て心地よさを感じたこと。それで宮下さんは大学で建築をやるうと決めた。一人暮らしをしたいと親を説得し、学費と家賃以外は自分で稼ぐ。「今までの大学生活は一瞬だった」と即答するほど、濃密な時間を過ごしているようだ。

「学部三年までは授業と課題に追われる中で建築系プロジェクトのコンペに参加、四年からは卒業制作といくつかのコンペに応募しました。金沢工大の特徴は先生と学生の距離が近い。施設としてはライブラリーセンターがほくには一番です。高校の友人の影響で本が好きになり、建築はもちろん、小説なども読んでいます。」
中部卒業設計展で相山女学院大

学の学生と出会い、のちに共同で「大東建託賃貸住宅コンペ」に参加し二位に入賞。日本最大の卒業設計展「せんだいデザインリーグ二〇二〇」では十一選、芦原建築設計研究所の「街並みの美学」ではトラベルスカラシップ賞を受賞し、金沢で作品展を開催した。

「卒業設計のテーマを決めるまで半年くらい悩みました。最終的には金沢の鞍月用水と周辺環境にしたんですが、終盤になって迷っていた時に蜂谷先生が「今の宮下の設計は以前のような楽しさが感じられない」と。その言葉で吹っ切れて、最後までやり切ったという感じでしたね。先生は的確な指示を瞬時に与えてくれます。」

指導する蜂谷俊雄教授の専門は、建築設計、地域計画、景観デザイン。話好きで学生との時間をとても大事にしてくれる先生だという。宮下さんは現在、五つのコンペを同時進行で進めている。個人で二

つ、研究室のグループで二つ、もう一つは神奈川大学と広島大学の学生との共同である。

「コロナでどこにも行けないのでリモートで勉強会をやっているうちにコンペに出そうとなつて。一週間のうち修士設計も含めて一日一つやればいいと思ってるんです。毎日がうごことを考えるのは楽しいですよ。修士設計は学生時代にしかできないファンタジー的なことをやりたい。テーマは「スケールアウトをして建築以外のこの世にある物から建築の新しさを追求する研究」です。」

将来は独立することも視野に、好きな建築家のアトリエへの就職を考えている。「成り行きで今日まで来た」と宮下さんは謙遜するが、挑戦と試行錯誤の積み重ねは、人を大きく成長させると実感した。

金沢工業大学
石川県野々市市扇が丘七七一
電話番号〇七六二四八一二〇〇